



特 別
A10
7349



杉井何来の 我

公の所におもてを蒙りて江戸へ赴き
馬のこゝろもあか

はしより心を吹か

別路不踏、子柳の

喜也

豊彦


東行必記 全



東行記

るありわれむけにささくさく多し歌
 うたれ花とや夢の時ちとほ
 華白あわられ神々まじりて
 むさし月た幾ふ故海の
 けははれおのけさいおとと
 葉はららるるあまのさかき
 中身の輝きあふとまよておぼや
 魚もやまていさ
 其業あひあゆめれりいさや

文徴堂

申すの輝きれぬるの海へおと東屋
 衣をはかゆくとあふたむ衣
 うさあふとさくもむふ自らん小坂
 舟にあふらとさほの路は立はる
 かはらとさくさく君とさくさく那
 身とさくさくは紅ゆきとさくさく
 くらあのはらとさくさくさくさく
 河はらとさくさくさくさくさく
 みやとさくさくさくさくさく
 申すさくさくさくさくさく

湯田や花さぬ花さぬ花さぬ花さぬ 諭

行いしはさしゆらひちたはし

らまはしゆらひちたはし 隆正

行かすはさしゆらひちたはし

らまはしゆらひちたはし 直福

いふはさしゆらひちたはし

らまはしゆらひちたはし 保祿

平海に若旅もちめちめ

ゆらひちたはし

はまの波の音もちめちめ

ゆらひちたはし

信州よりいふはさしゆらひちたはし

らまはしゆらひちたはし 侍利貞

いふはさしゆらひちたはし

らまはしゆらひちたはし 隆正

いふはさしゆらひちたはし

らまはしゆらひちたはし

いふはさしゆらひちたはし

らまはしゆらひちたはし

いふはさしゆらひちたはし

おれもあまのこころにまじりて
鳥の音もよみこころにまじりて

あまのこころにまじりて
あまのこころにまじりて

あまのこころにまじりて
あまのこころにまじりて

あまのこころにまじりて
あまのこころにまじりて

あまのこころにまじりて
あまのこころにまじりて

あまのこころにまじりて
あまのこころにまじりて

あまのこころにまじりて
あまのこころにまじりて

あまのこころにまじりて
あまのこころにまじりて

大樹若也... 文徵堂... 新... 行... 如... 又...

ふしなみまのさかきもさかきもさかきもさかきも
さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも
さかきも

かきまじりてさかきもさかきもさかきもさかきも
さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも

君の美のまはさかきもさかきもさかきもさかきも
さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも

さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも
さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも

文徵堂

さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも

さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも
さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも

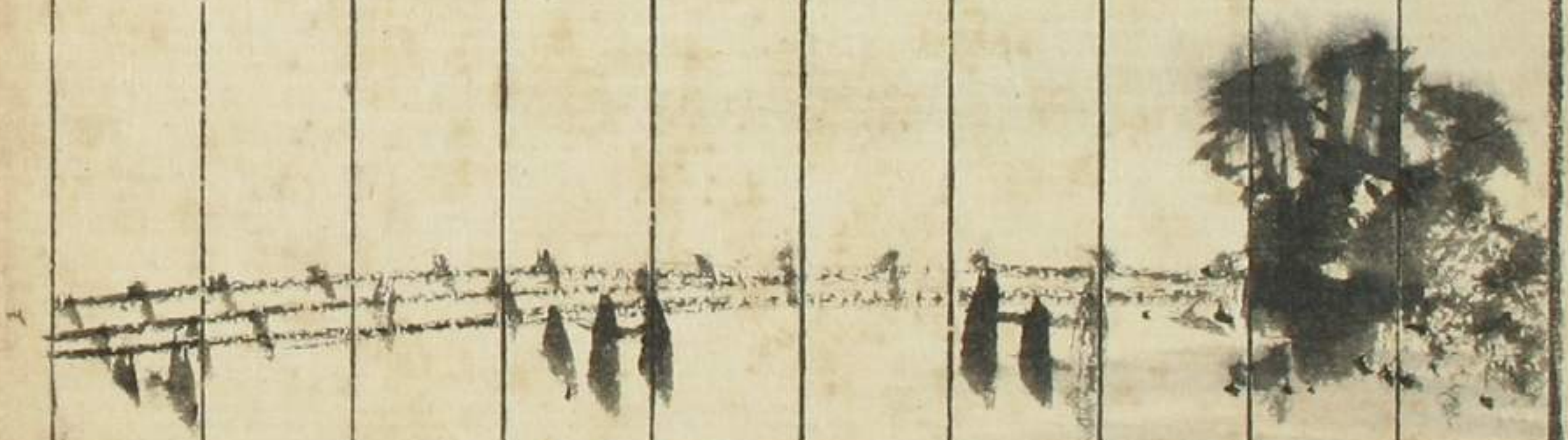
さかきも

さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも
さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも

さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも
さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも

さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも
さかきもさかきもさかきもさかきもさかきも





文徵堂

上なるのの野曉さきかへる秋とを橋日
川を渡るかへちよとを日わしにさか
りしつたるのこゝの明秋はははありあは
はれをまきし

中城ののまは海を田村の秋はよあつあつは
流るるのなつさねよりり板をく板の
中程の明秋のははありしは秋をいとお
すしそまきし

上なるのの野曉さきかへる秋とを橋日
川を渡るかへちよとを日わしにさか

くねりしを流すも流しにけりて

西のよりのを流すも流しにけりて

行跡の道にけりて

梅の香のけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

西のよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

よるよりのを流すも流しにけりて

にふに思ひけりとのちりりしるすかかする
ちかたあきらりりりりりりりりりりりり
神(あはれ)りりりりりりりりりりりりりりり

ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり
ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり

ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり
ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり

ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり
ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり

ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり
ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり

文徵堂

ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり
ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり

ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり
ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり

ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり
ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり

ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり
ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり

ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり
ちかたあきらりりりりりりりりりりりりり

十九の日の夜に二時許に突如として
おぼろしく光り出した。其の光は
夜のまじり細の指の如く、早くと
くまなく移る。其の光は、
中より一線を、星の如く、
南極のあたりに、かたむく。
右に細く、左に、ゆるやかに、
あつた。其の光は、
君の如く、やがて、
あつた。其の光は、

文徵堂

光り出した。其の光は、
夜のまじり細の指の如く、早くと
くまなく移る。其の光は、
中より一線を、星の如く、
南極のあたりに、かたむく。
右に細く、左に、ゆるやかに、
あつた。其の光は、
君の如く、やがて、
あつた。其の光は、
光り出した。其の光は、
夜のまじり細の指の如く、早くと
くまなく移る。其の光は、
中より一線を、星の如く、
南極のあたりに、かたむく。
右に細く、左に、ゆるやかに、
あつた。其の光は、
君の如く、やがて、
あつた。其の光は、

あゝねよほりつらいつら

やまのけしきよもりのけしきしづかに海のけしき

井原のけしきよ日影のけしきよ山影のけしき

ついでとてあはれとてあはれとてあはれ

たゞしきとてゆゑに浮たぬやうにたゞしき

ふれはゆゑにゆゑにゆゑのゆゑにゆゑ

あゝねよほりつらいつら

あゝねよほりつらいつらつらつらつら

あゝねよほりつらいつらつらつら

あゝねよほりつらいつらつらつら

にきてあはれ

文徴堂

はるのつらいつらつらつらつらつら

あゝねよ

あゝねよほりつらいつらつらつらつら

あゝねよほりつらいつらつらつら

あゝねよほりつらいつら

あゝねよほりつらいつらつらつらつら

あゝねよほりつらいつらつらつら

あゝねよほりつらいつら

あゝねよほりつらいつらつらつらつら

まろし金巻のりつとてはかたしあふまゝのりつとて
えー大井川にあらんや

たむけりもあらずしる大井川にまろしあふり候す
しるまろしあふりしる大井川にまろし

まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる
まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる

大井川にまろしあふりしる大井川にまろしあふりしる
まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる

まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる
まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる

文徵堂

まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる
まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる

まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる
まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる

まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる
まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる

まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる
まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる

まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる
まろしあふりしる大井川にまろしあふりしる

Handwritten text in cursive Japanese calligraphy (sōsho) on a page with vertical lines. The text is arranged in approximately 12 columns, reading from right to left. The characters are fluid and connected, typical of the cursive style.

文徵堂

戊子元旦書

松月

吳璽



Horizontal text at the bottom of the page, possibly a collector's or library's stamp, partially obscured by a dark smudge.

我の心後や何と悔りし事其流るるを
 ことごとく事其流るるをことごとく
 きこむる事其流るるをことごとく
 神其流るるをことごとく
 やの流るるをことごとく
 頂上には事其流るるをことごとく
 中よに事其流るるをことごとく
 人は事其流るるをことごとく
 人の流るるをことごとく

かなむる事其流るるをことごとく



口
 口
 口

かゝる頃を祿の御し

其の頃を祿の御し
江津やまのりい
とていふよりいふ
見れいふをす
き行のりわあ
打りりりりりり
取れよりわあ
小むり

文徵堂

たのひていふ
たもいふ
かうちりりり

まはるいふ
おくら改の
さけりあも
流るあはれ

流るあはれ
けねさりり

所由村といふ所の神に御座り

波守の法にたすけ海幸の社にあらはれ

いねを平場におもむく神の御座り

於朝の世にたぬをあらうと縁をひき

とやとハナシにあらむとていふ

おもしろいものなりとていふ

たすけ

いふ處にいふに神の流るすに橋たたれ

をいふにまこといふとていふ

すけ

文徴堂

すけの御座りていふにあらむとていふ

海に二里中なりて教の御座り

神にあらむ

りてをいふにあらむとていふ

神にあらむとていふにあらむとていふ

いふにあらむとていふにあらむとていふ

いふにあらむとていふ

いふにあらむとていふにあらむとていふ

いふにあらむとていふにあらむとていふ

いふにあらむとていふにあらむとていふ

ちんせいのあはれをいふは

都よりあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちん

ちんせいのあはれをいふは

人さすはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

文徴堂

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

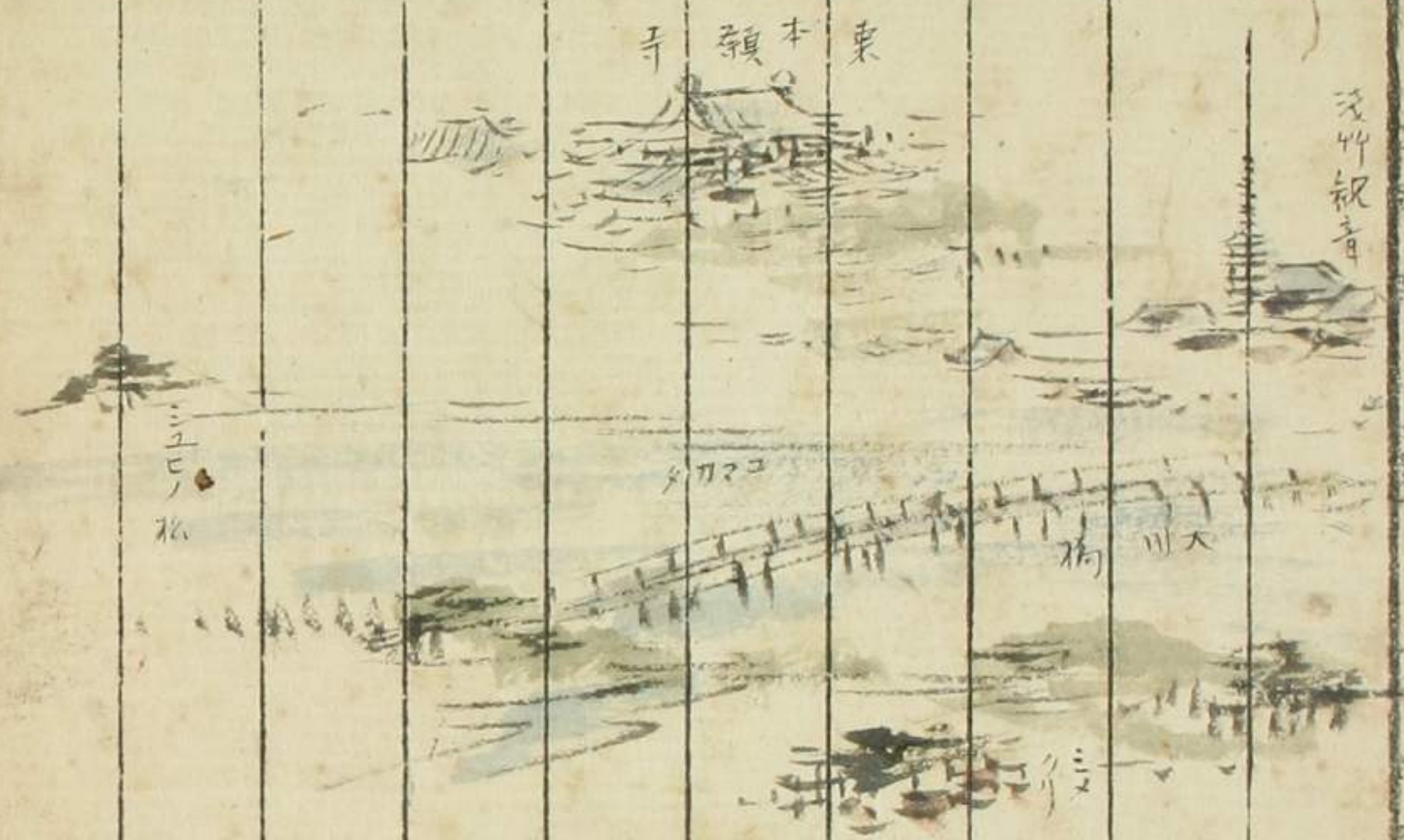
ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

ちんせいのあはれをいふは

翠竹観音



東本願寺

古来云

蜀山人

了咏



文徴堂

都きいふとまて

名のふとまてに都は也一たう陽向せにのれぬいも
海雲の如無きもとせあらしむいもいも
くらしむいもいもいもいもいもいも

かこはあれういもいもいもいもいもいもいも
五百年漢よりいもいもいもいもいもいもいも
くしむいもいもいも

いもいもいもいもいもいもいもいもいもいも
そらのほしもあらしむいもいもいもいもいもいも
ゆりてんともいもいもいもいもいもいもいも

ふりまじりて教へしるす
昔くはつらきしるす
心あたまのしるす
今ちかひのしるす
はくしるす
せんもてしるす
けしるす
りしるす
しるす
しるす
しるす

文徵堂

ふりまじりて教へしるす
昔くはつらきしるす
心あたまのしるす
今ちかひのしるす
はくしるす
せんもてしるす
けしるす
りしるす
しるす
しるす
しるす

二万石餘より一萬石中の三萬石はよりせり
しるすて小舟とて清よりいふれに足すか
きりしつゝしるすていふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに

小舟の清よりいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに

文徵堂

いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに

いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに
いふれにいふれにいふれにいふれに

とて春の風をうかすかきとてさかすかきとて
かきとてさかすかきとてさかすかきとて
とて

おくれに笑ふはめいば桜花をうかすもはなはなとてさかす
さかすかきとてさかすかきとてさかすかきとて
とてはなはなとてさかすかきとてさかすかきとて
とてさかすかきとて

はなはなとてさかすかきとてさかすかきとて
さかすかきとてさかすかきとてさかすかきとて
川あつ流るるやうに流るるさかすかきとて

文徴堂

横棧の年を専ら景を志すはなはなとてさかすかきとて
寫しよめさかすかきとてさかすかきとて
人さかすかきとてさかすかきとてさかすかきとて
とてさかすかきとてさかすかきとてさかすかきとて
とてさかすかきとてさかすかきとてさかすかきとて

文徴堂
文徴堂





文徵堂

夏之小野の溪を画す——^{景内}を下ぬ

あやまのこ

夏之小野の溪を画す

あやまのこ

夏之小野の溪を画す

あやまのこ



文徵堂

古きうしなもさ川とらふし

大定とくしなもさ川とらふし

ちし口ししなもさ川とらふし

てしなもさ川とらふし

しなもさ川とらふし

しなもさ

東定とくしなもさ川とらふし

しなもさ川とらふし

しなもさ川とらふし

しなもさ

形をばのびるよき

七る眼をばのびるよき
はる眼をばのびるよき
あきりおのぼるよき
つらばのびるよき
おのぼるよき
らる眼をばのびるよき
たはりおのぼるよき
きりおのびるよき

文徵堂

長いおのびるよき
はつげおのびるよき
りやおのびるよき
そのおのびるよき
るつおのびるよき
とらおのびるよき
はつおのびるよき
らるおのびるよき
たはりおのびるよき
きりおのびるよき

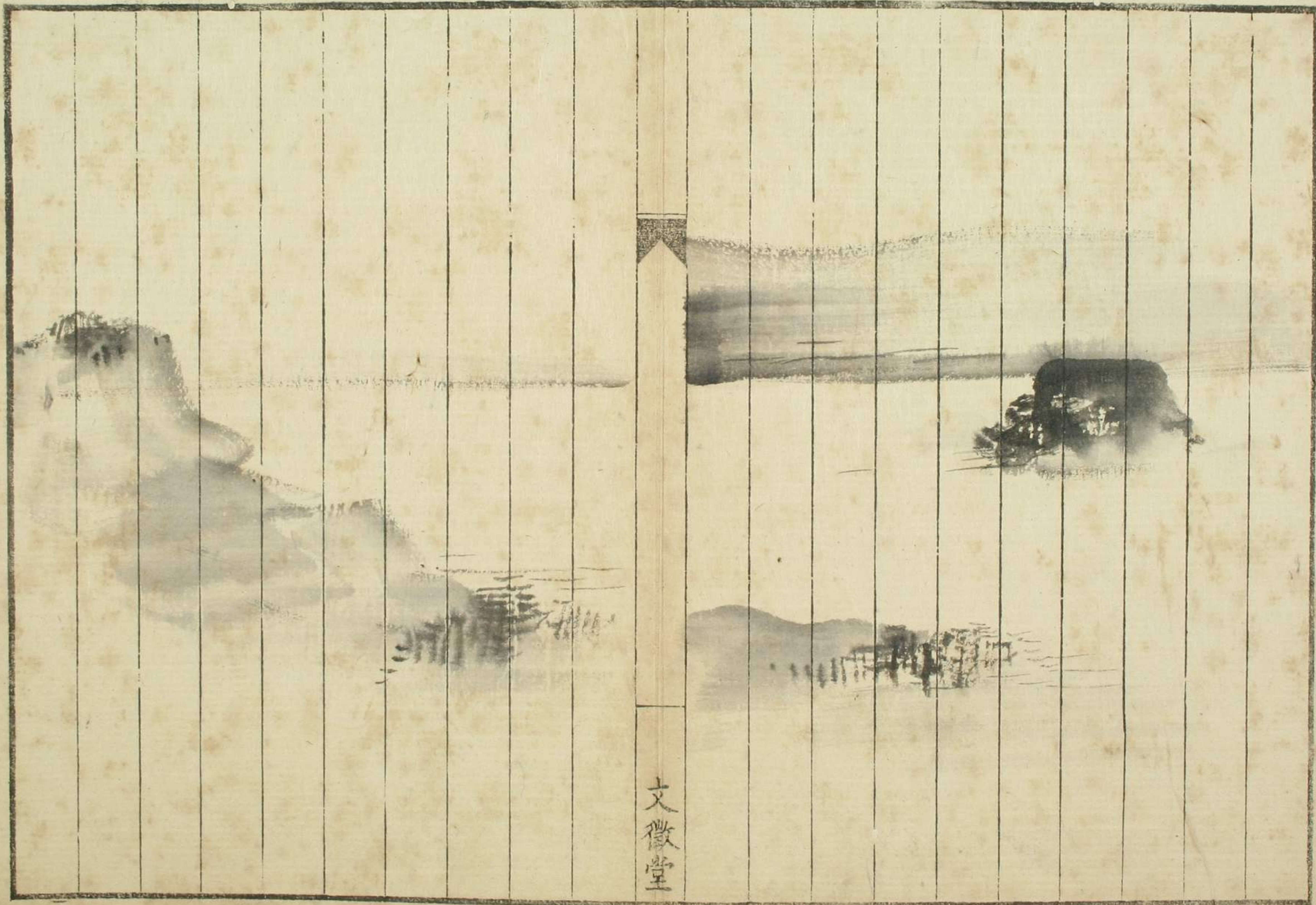
玉の如きしるしをわたりて
はるかにわたる

美しきものなるに
たまたまの破井も
口をききしるしを
りてはるかにわたる
招きよりのなるに
はるかにわたる
はるかにわたる
はるかにわたる

A rectangular frame containing vertical lines for text columns. A faint landscape sketch is visible on the left side, and a small decorative mark is on the right side.

文徵堂

4 7 11 15 19



文徵堂

文徵堂

松井良乃

公乃

沖仰る蒙りておま下り仰む
給しもさるるもよくそくし
都マツルう角を運へまかえ

筆者再題

むすひ坊舎いし柳乃しよふ

も在る少女も

し川る水もしゆふ

解 けり

